

389  
63



大日本武徳會制定劍術形



339-63

大日本武德會本部劍道教士  
京都帝國大學劍道教師  
第三高等學校劍道指導  
內藤高治先生解說

大日本武德會  
制定劍術形



大日本武德會劍道教士  
門奈正先生解說

45. 4. 24

## 序 文

大日本武徳會制定劍術形は劍道範士委員となり明治三十九年七月廿六日の草案にして同年八月總裁宮殿下の御裁可あらせられたるものなり爾來武徳會制定形として講習しつゝあるも講習者の爲に備考として未だ書籍として出でず書肆便利堂余を訪ひ武徳會制定形備考近來甚だ注文多し一冊となし講習者の便に與へられんとを切に望む抑も劍術形なるものは陰陽の理に則り刀法を正し

て氣を鍊り膽を養ふものにして古來より各流形ある所以なり形を畫き示して學び得らるゝものにあらず之れ劍技は有形にして無形なればなり唯初學の士形を學ぶの順序として備考の爲に書籍となすは尤も適切の方法と云ふべし書して序と爲す

明治四十五年二月

劍道教士 内藤高治

大日本武徳會制定劍術形目錄



第一本

- 第一圖 打太刀仕太刀場に臨むの圖……………三
- 第二圖 黙禮の圖……………四
- 第三圖 五尺に接近の圖……………五
- 第四圖 太刀を抜きつゝ、蹲踞の圖……………六

- 第五圖 刀尖を接する圖……………七
- 第六圖 起立の圖……………八
- 第七圖 上段に構ふ圖……………九
- 第八圖 仕太刀の右籠手を撃つ圖……………一〇
- 第九圖 仕太刀刀を豎上段に摺り上くる圖……………一一
- 第十圖 右足を左足に引き付く圖……………一二
- 第十一圖 仕太刀の刀を打ち落す圖……………一三
- 第十二圖 打太刀の胸部を突く圖……………一四

第二本

- 第一圖 仕太刀五歩退きの圖……………一五
- 第二圖 仕太刀星眼に構へ三步進みの圖……………一六
- 第三圖 眞向に冠る圖……………一七

- 第四圖 刀を打ち合せ張弱を圖る圖……………一八
- 第五圖 打太刀は仕太刀の刀を抑へる圖……………一九
- 第六圖 仕太刀左足を抜く圖……………二〇
- 第七圖 打太刀の突くに任す圖……………二一
- 第八圖 打太刀の背後より大袈裟に切る圖……………二二

第三本

- 第一圖 下段に構へ八歩の距離に相對する圖……………二三
- 第二圖 互に三步宛進むの圖……………二四
- 第三圖 星眼に合せ互に氣の熟する圖……………二五
- 第四圖 打太刀刀を斜下段に抜く圖……………二六
- 第五圖 仕太刀の脚部に切り込むの圖……………二七
- 第六圖 摺り拂ひ右足を右に轉する圖……………二八



大日本武術總會本部劍道教士  
 內藤高治先生

第七圖 仕太刀上段に冠るの圖……………二九

第八圖 打太刀の眞向を撃たんとする圖……………三〇

第九圖 打太刀の眞向を切り付くの圖……………三一

第十圖 刀尖を接する圖……………三二

第十一圖 蹲踞の圖……………三三

第十二圖 刀尖を收むる圖……………三四

第十三圖 起立の圖……………三五

第十四圖 敬禮の圖……………三六



大日本武徳會本部劍道教士  
門奈正先生

大日本武徳會

劍術形 (二本)

第一本(上段)

第一圖の如く打太刀仕  
太刀場に臨むや互に刀  
を左手に提げ刃を上  
し鏝際を握り右手を垂  
下し直立自然の体勢に  
て眼を敵眼に注ぎ氣充  
て凡そ八歩の距離を以  
て相對するや



第一本第一圖

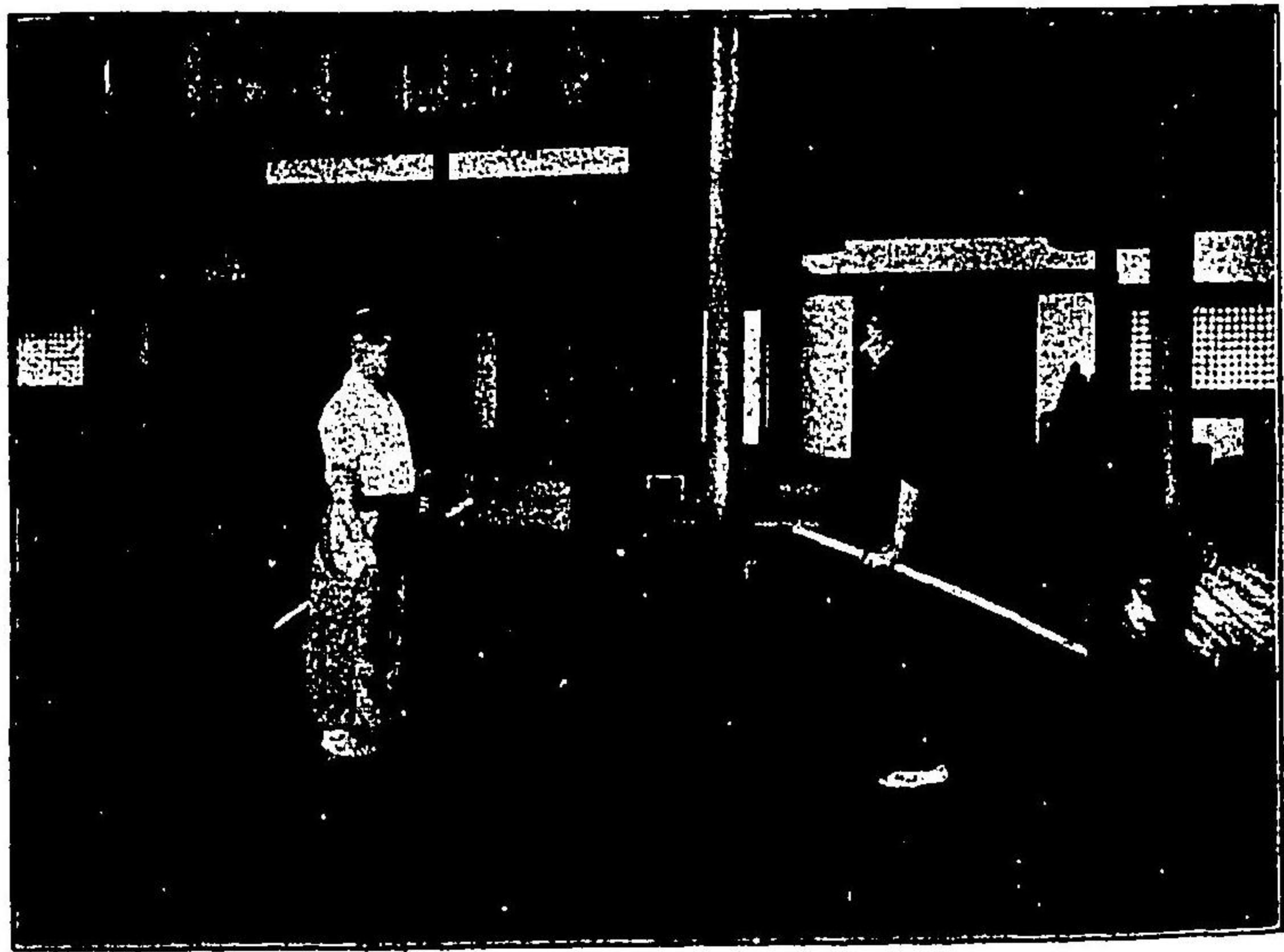


第二圖の如く互に軽く  
黙禮す



第一本第二圖

然かして第三圖の如く  
双方右足より徐々に前  
進し間合凡そ五尺に接  
近したる時



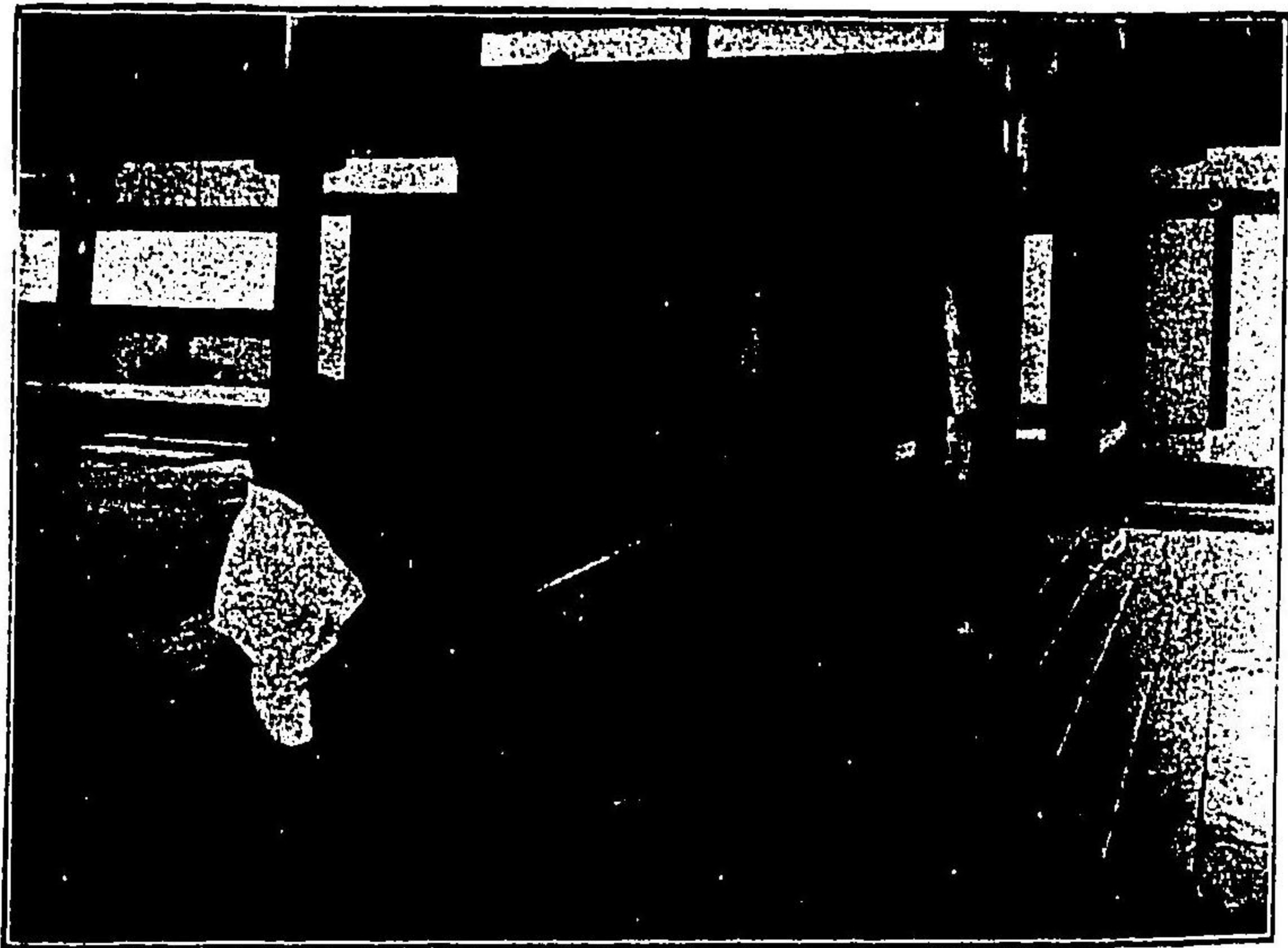
第一本第三圖

第四圖の如く刀を抜き  
つゝ蹲踞し



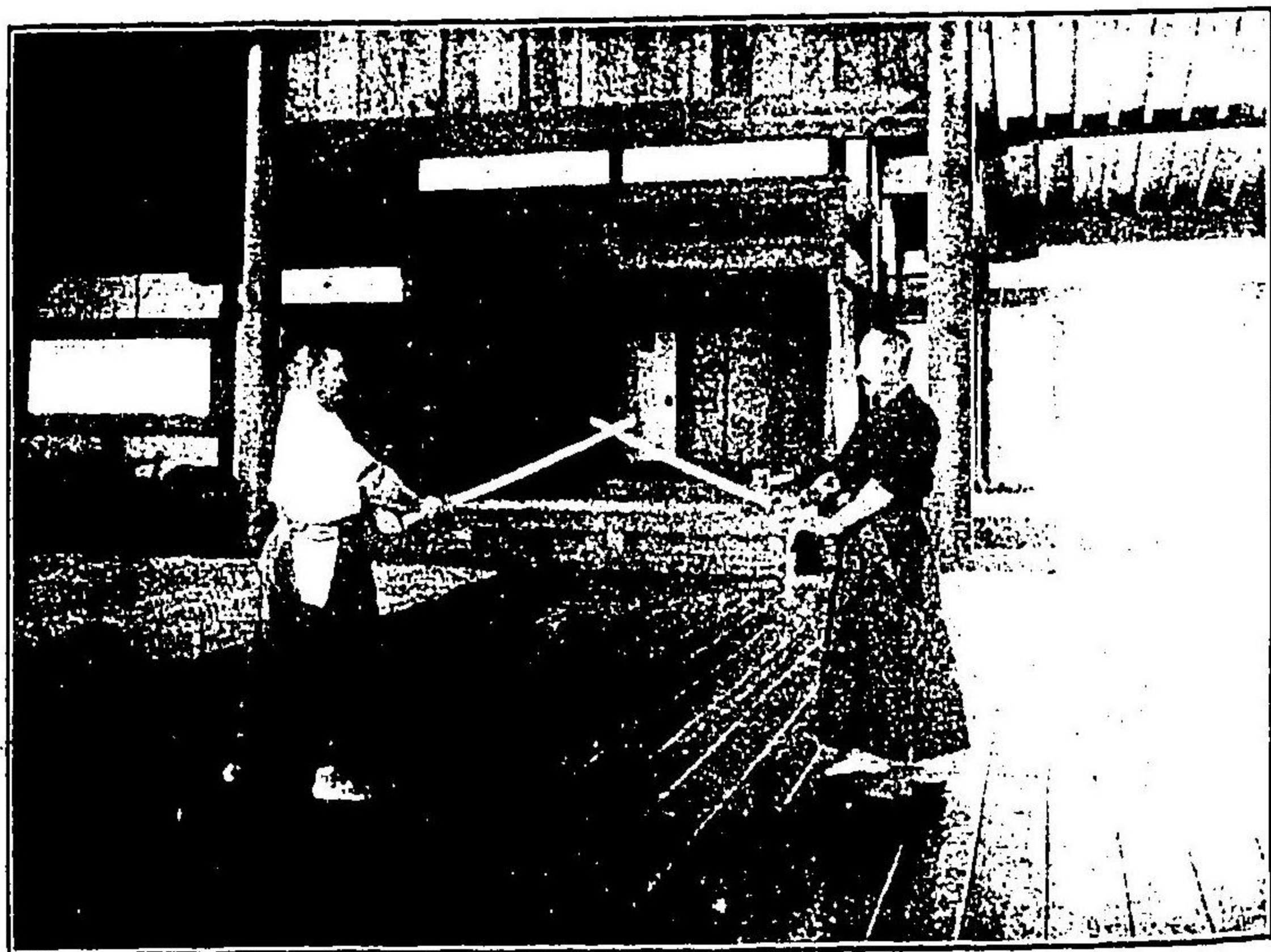
第一本 第四圖

第五圖の如く互に刀尖  
を接し



第一本 第五圖

や  
第六圖の如く起立する



圖六第 本一第

打太刀は第七圖の如く  
上段に構へ(左り自然体)  
其精神の充分充るに及  
で仕太刀は星眼の構の  
儘にて三步進み(大股に  
踏みて)間合に接するや



第一本第七圖

打太刀は第八圖の如く  
上段より仕太刀の右籠  
手を撃つの状を示す仕  
太刀は之を察し刃を少  
し右に轉じて之に備ふ  
れば



第一本第八圖

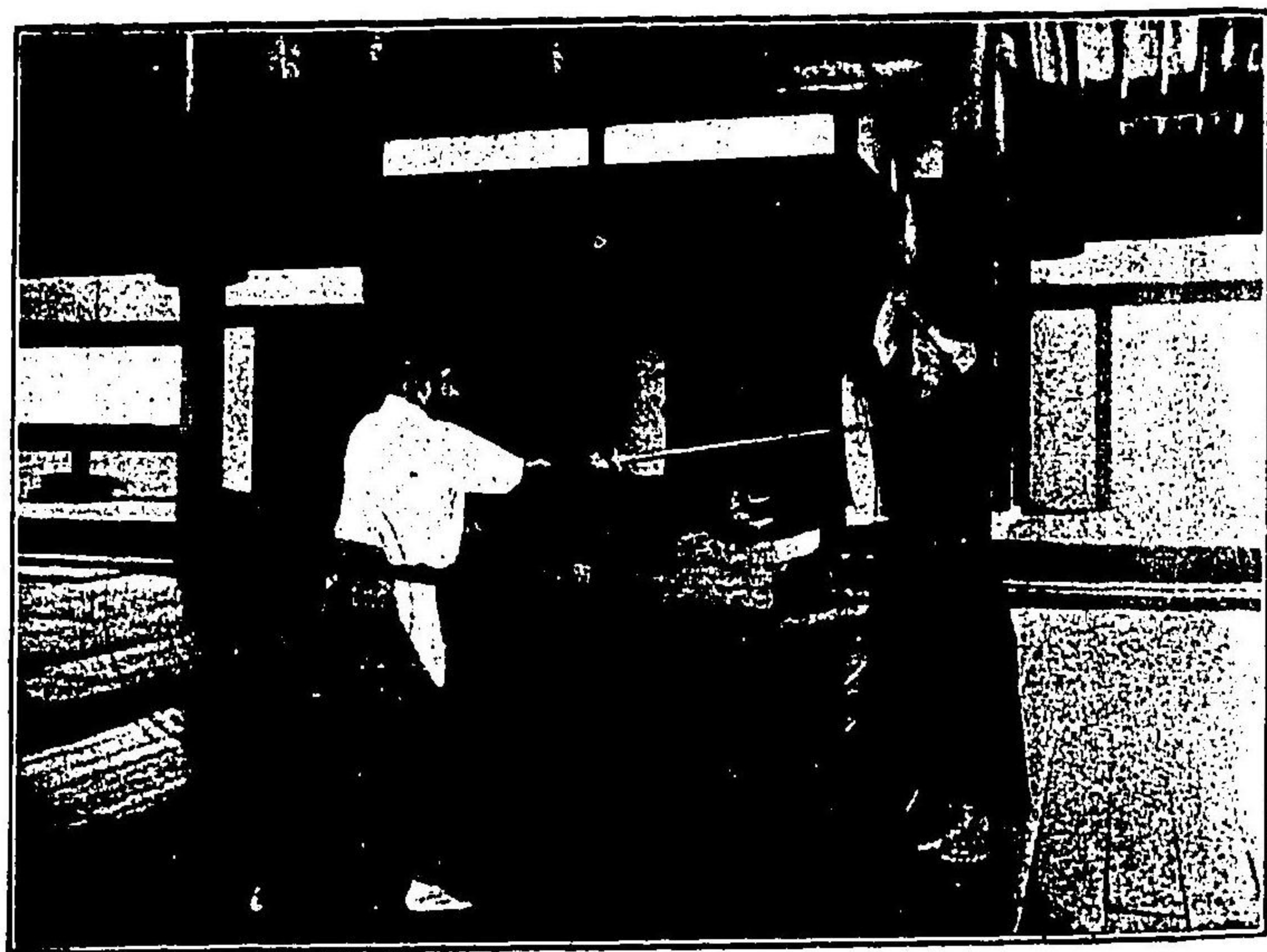
打太刀は第九圖の如く  
ヤト懸聲を發するこ  
共に仕太刀の左腕を大  
袈裟に切り込む仕太刀  
は刀を豎上段に摺り上  
げ左足を抜き其劍尖を  
避けると共に



第一本第九圖



第十圖の如く右足を左  
足に引き付け



第一本第十圖

第十一圖の如く右足を  
少し進めると同時にト  
一の懸聲と共に打太刀  
の刀を打落し



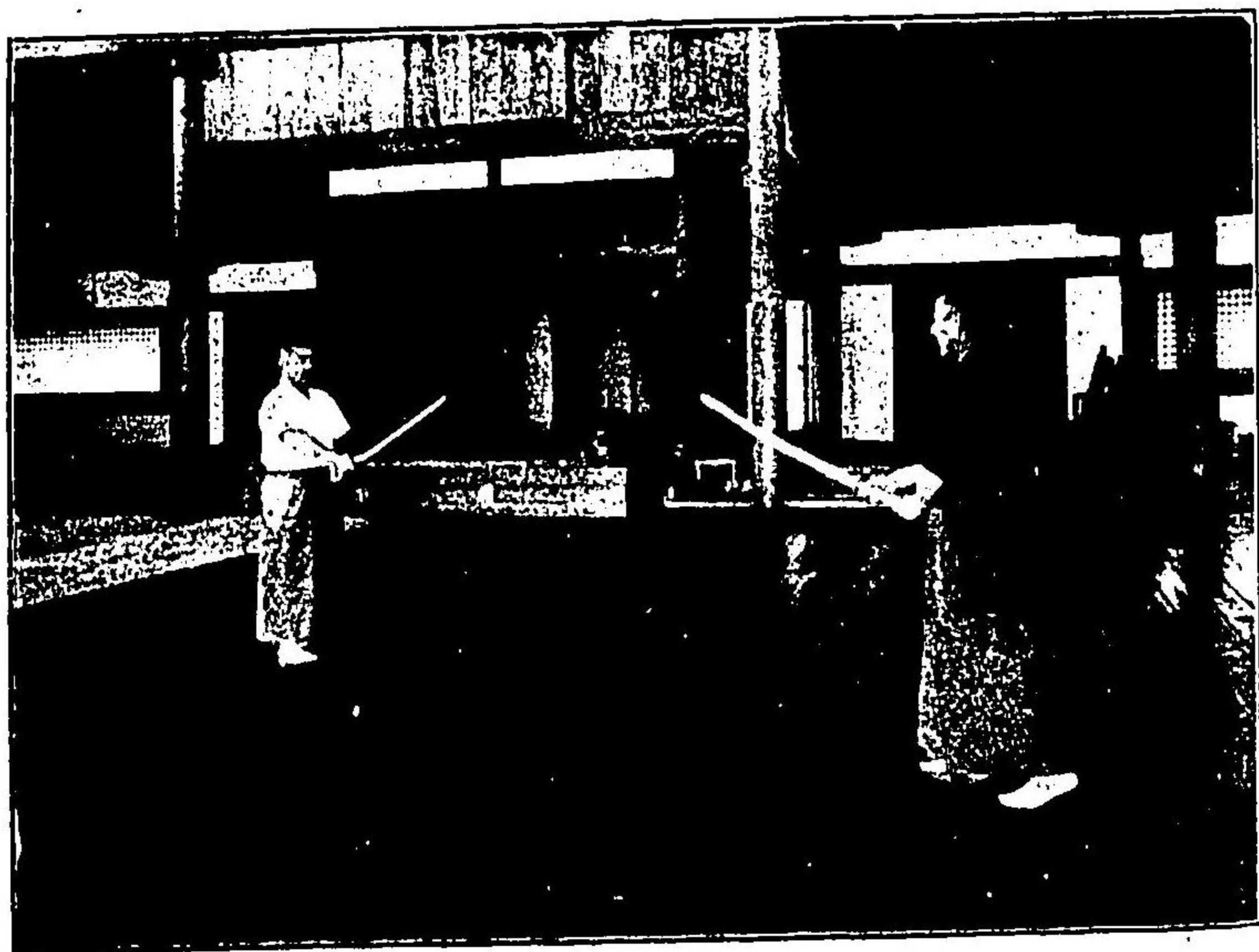
第一本 第十圖

第十二圖の如く又一步  
右足を進めてエーの懸  
聲と共に打太刀の胸部  
を突く



第一本 第二十圖

第二本(中段)  
打太刀仕太刀相對する  
や(打太刀は其儘仕太刀  
は五步退き



第二本第一圖

第二圖の如く打太刀の  
中段に構へるや仕太刀  
は星眼に構へて三步進  
み(大股に踏み)

註 此の打太刀中段と  
稱する構へは八相  
の體なるを新らた  
に中段と名稱を附  
したるものなり



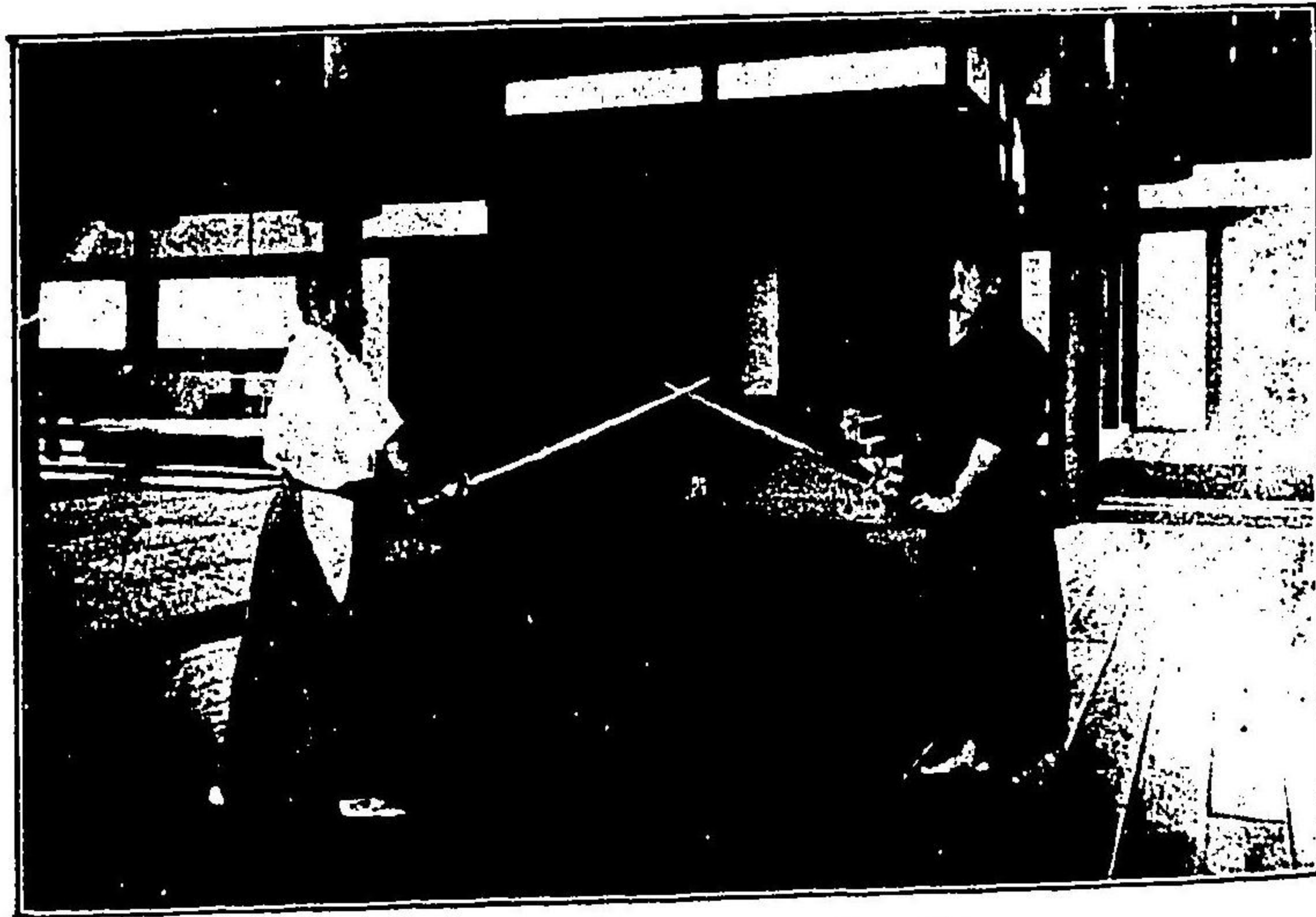
第二本第二圖

第三圖の如く互にヤ  
と懸聲を發し眞向に冠  
りて



圖三第 本二第

第四圖の如く互にト  
の懸聲と共に刀を打合  
せ打太刀は仕太刀の強  
弱を圖り機の熟するを  
見て



第二本 第四圖

第五圖の如く打太刀は  
仕太刀の刀を抑へ



第五圖 第二本



第六圖の如く打太刀は  
エーの懸聲と共に仕太  
刀の胸部に突き込めは  
仕太刀は左足を披き

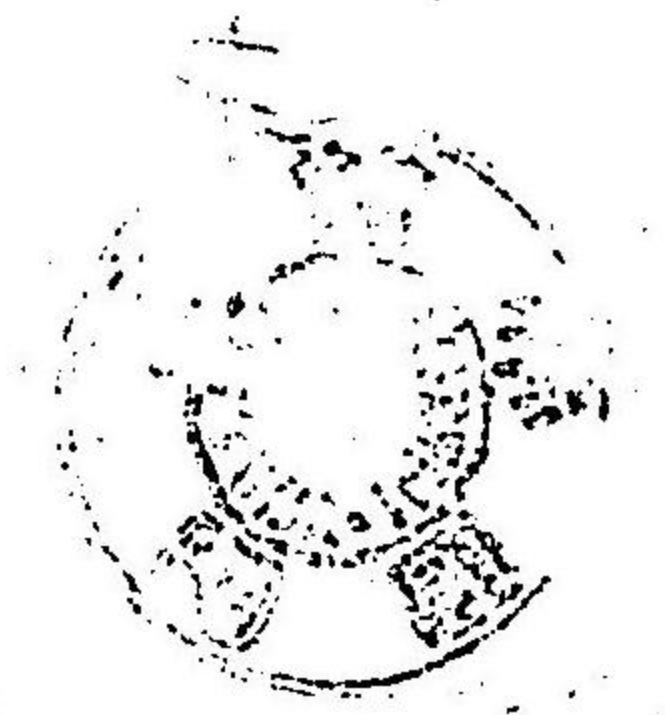


第二本第六圖

第七圖の如く打太刀の  
突くに任せて



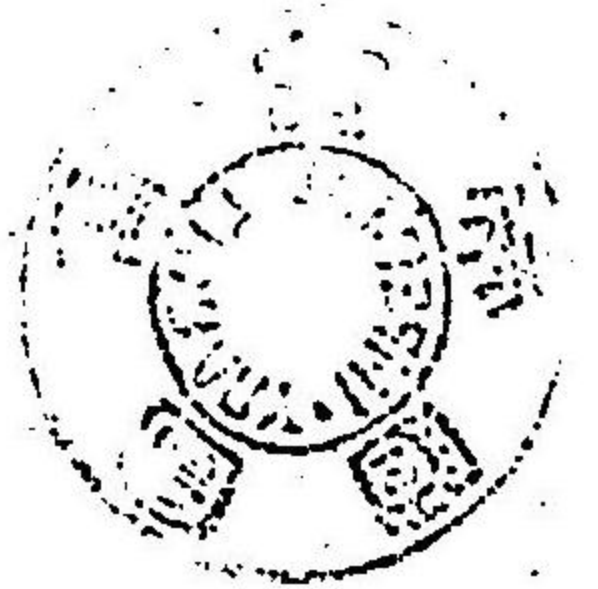
圖七第 本二第



第八圖の如く打太刀の  
体の亂るゝを認めて仕  
太刀はエーの懸聲と共  
に打太刀の脊後より大  
袈裟に切る



■ 八 第 本 二 第



三本目(下段)

第一圖の如く打太刀仕  
太刀互に下段に構へ八  
歩の距離に相對するや

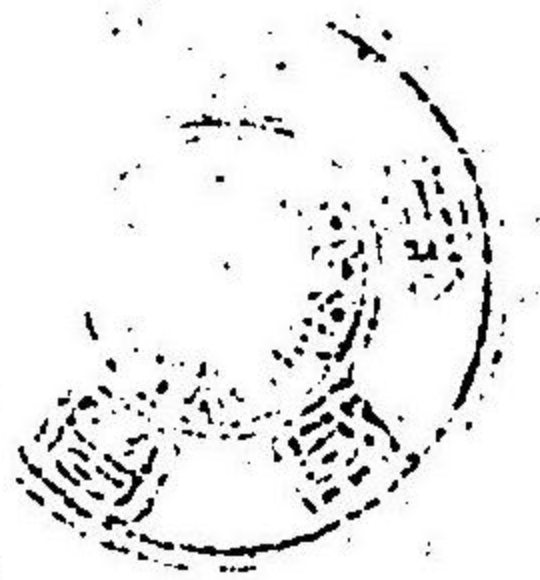


第三本第一圖

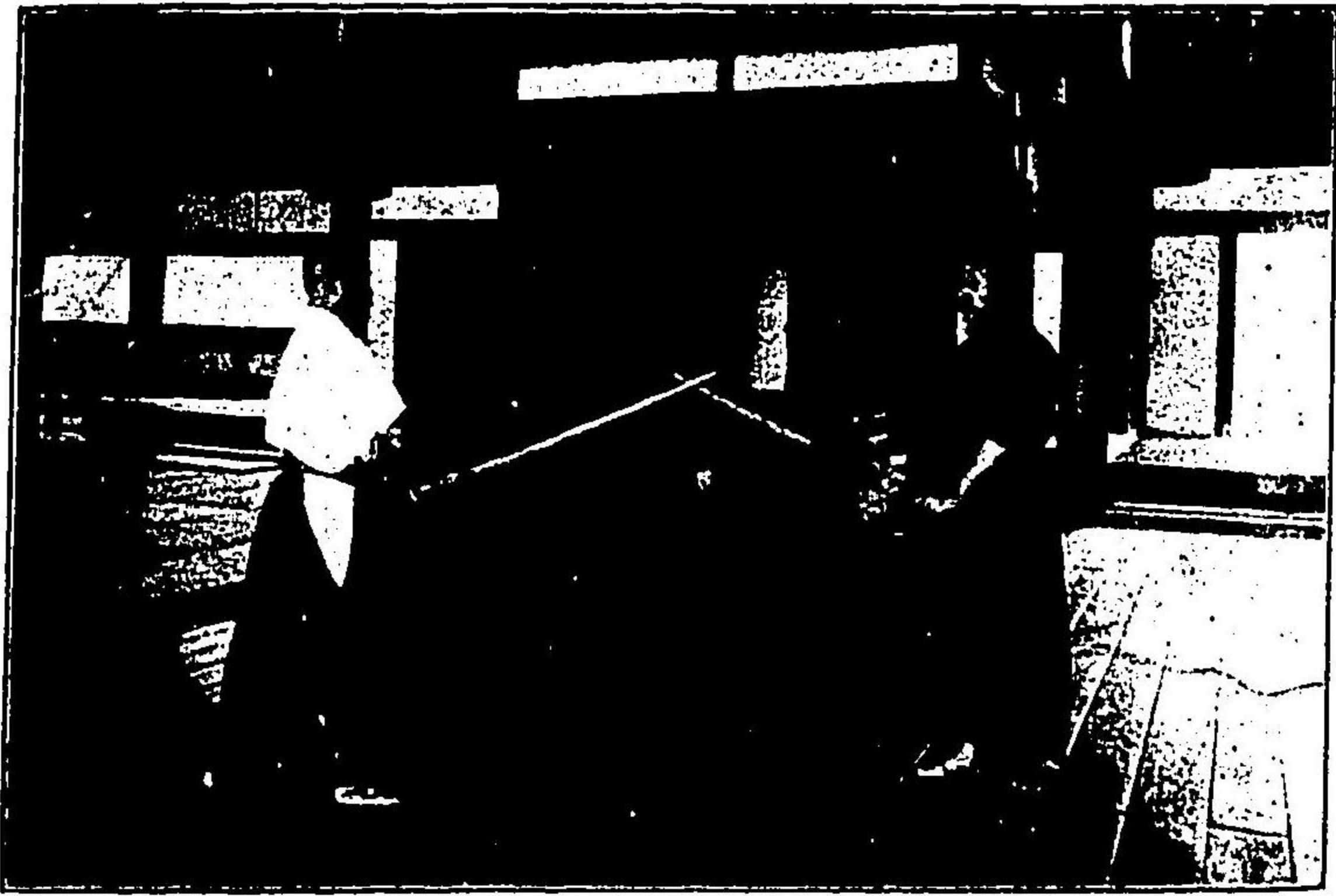
第二圖の如く互に三歩  
づゝ進み(大股に踏み)間  
合に接するや刀尖を下  
段より



第三本第二圖



第三圖の如く星眼に合  
せ互に氣の熟するを圖  
り



第三本三圖

打太刀は第四圖の如く  
刀を斜め下段脇構の状  
に披き



第三本 第四圖

打太刀は第五圖の如く  
ヤ一の懸聲と共に進ん  
で仕太刀の脚部に切り  
込む仕太刀はト一の懸  
聲と同時に左足を右足  
に引き付け刀尖を右足  
の前に垂下し打太刀の  
刀を受けると同時に



第三本第五圖

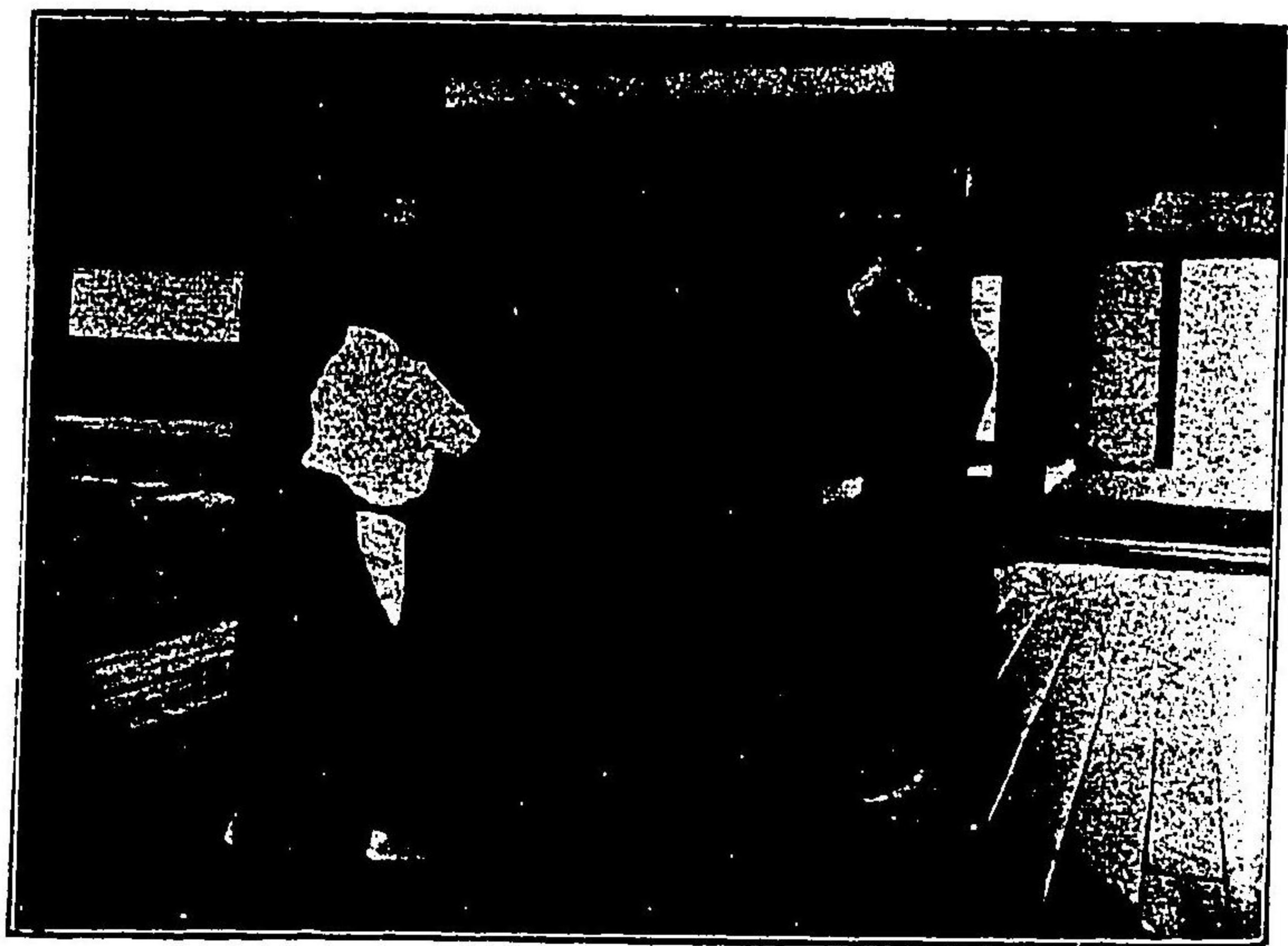


第六圖の如く摺り拂ひ  
右足を右に轉し



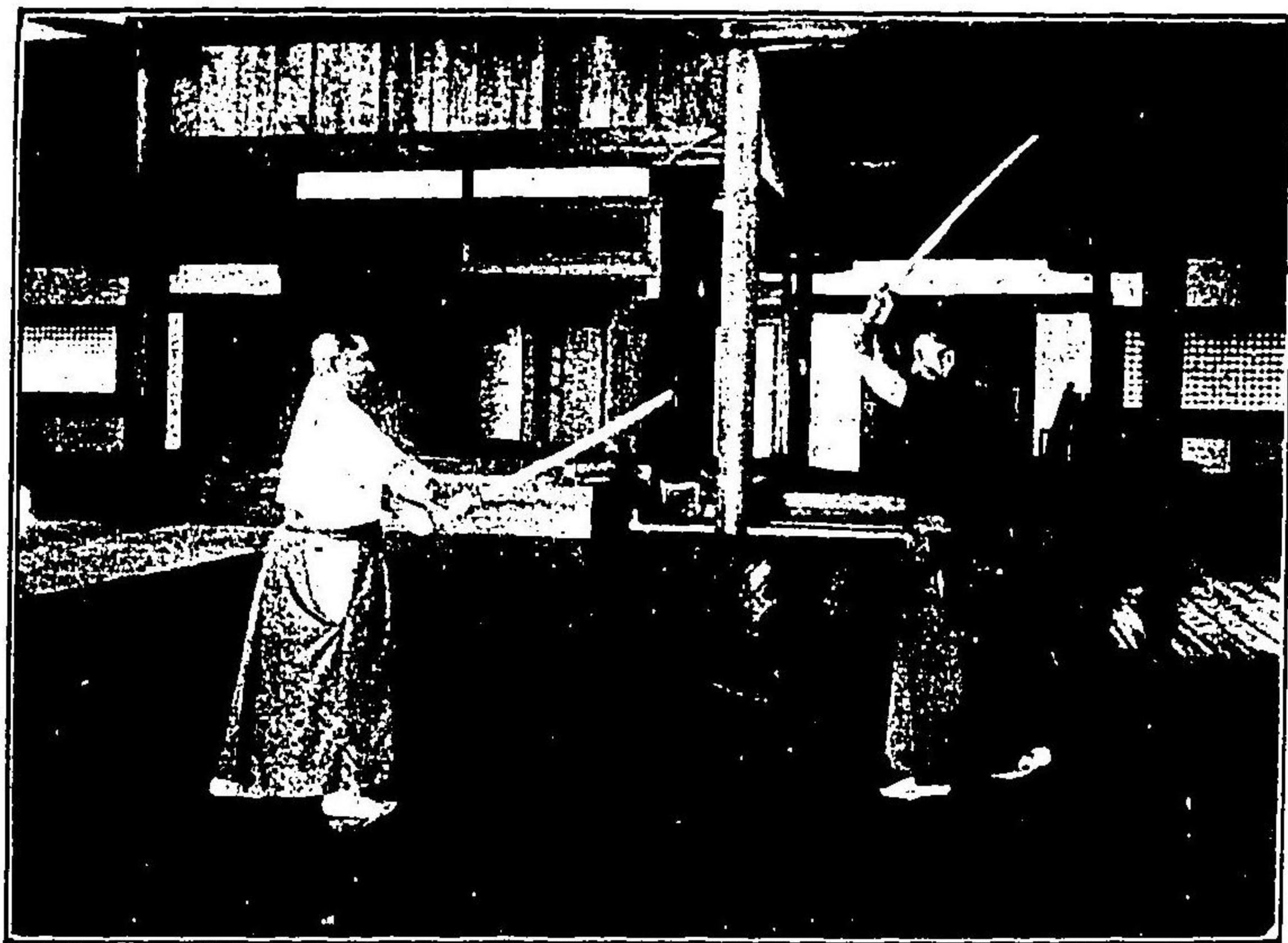
第三本 第六圖

第七圖の如く左足を引  
き付けんとするや打太  
刀は刀尖を星眼に構へ  
て少し進む仕太刀は上  
段に冠り



第三本第七圖

第八圖の如く左足を踏  
み出し打太刀の眞向を  
撃たんとす



第三本 第八圖

打太刀は第九圖の如く  
左足を引くと同時に仕  
太刀も一步右足を踏み  
出しヤ一の懸聲と共に  
打太刀の眞向に切り付  
く打太刀は左足を先さ  
にし之を防止して



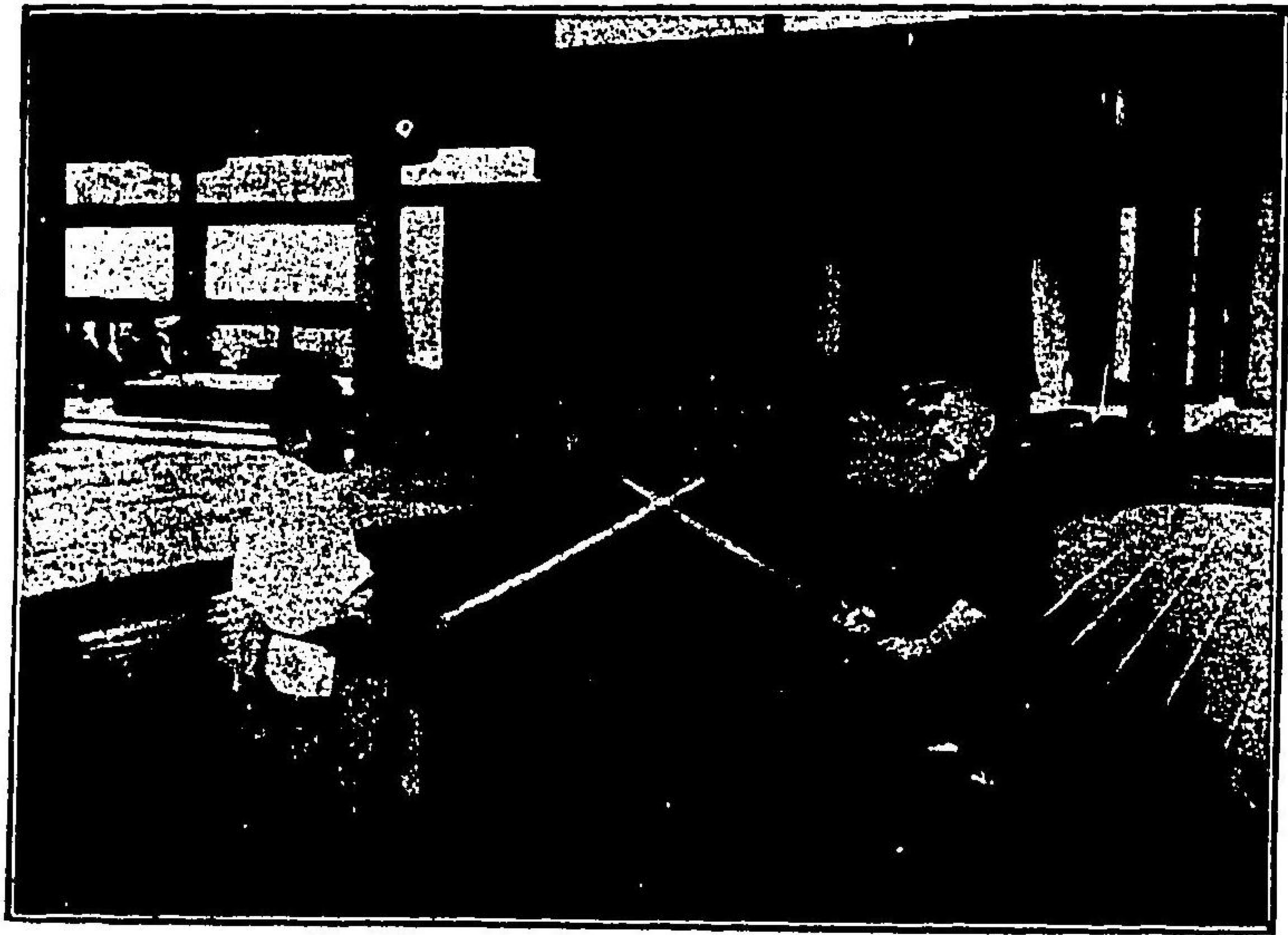
第三本 第九圖

す 第十圖の如く刀尖を接



第三本第十圖

第十一圖の如く蹲踞し  
然かして



第三本 第十圖

第十三圖の如く刀尖を  
おさめ



第三本 第二十圖

第十三圖の如く起立し



第三本 第三十圖



第十四圖の如く敬禮す



DK

第三本 第十四圖

大日本武德會劍術形

明治四十五年四月十日印刷  
明治四十五年四月十五日發行

著作權所有 不許復製

編輯者

土屋角平

印刷者

殿村丑之助

發行所

京都市吉田町 便利堂書店

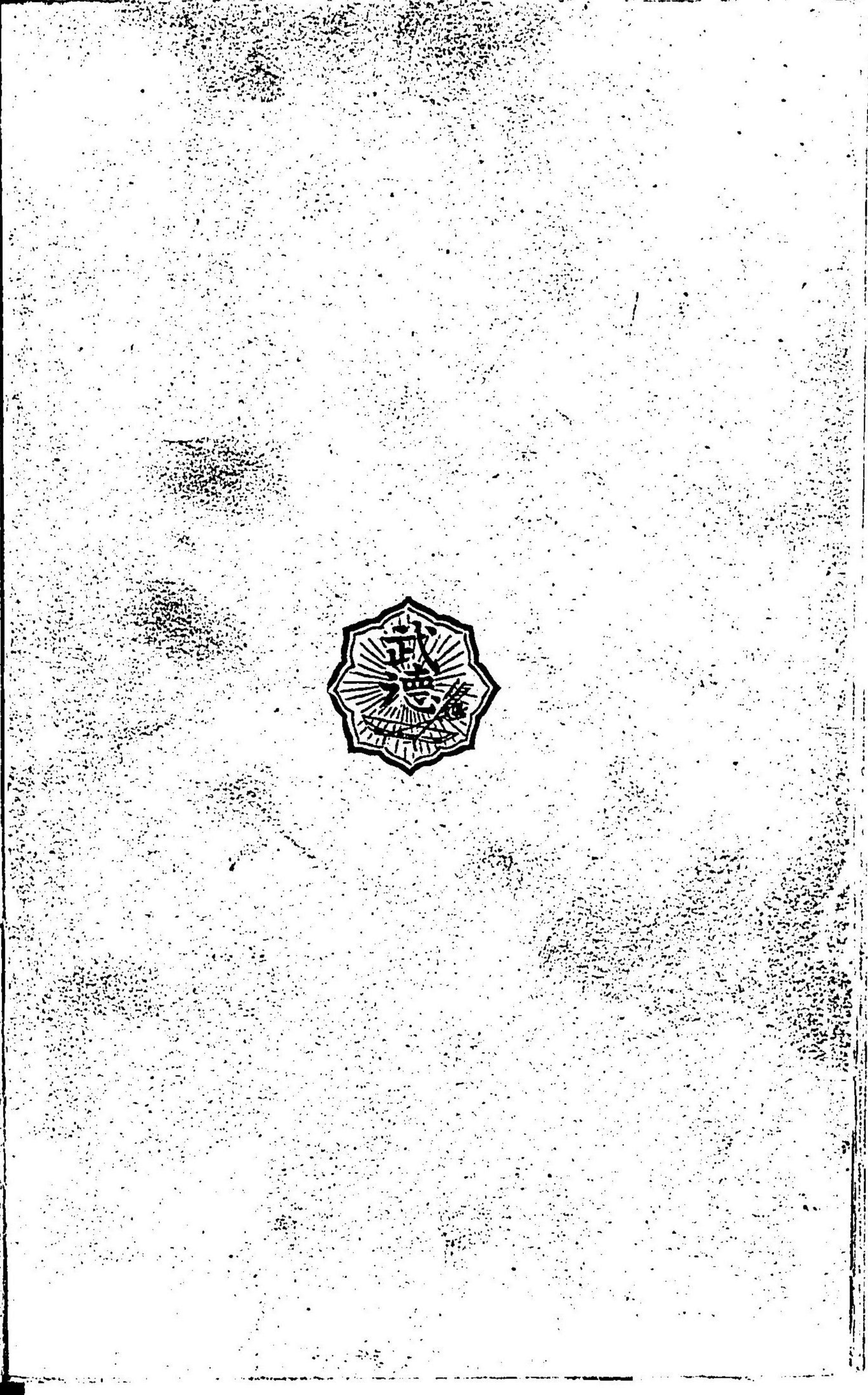
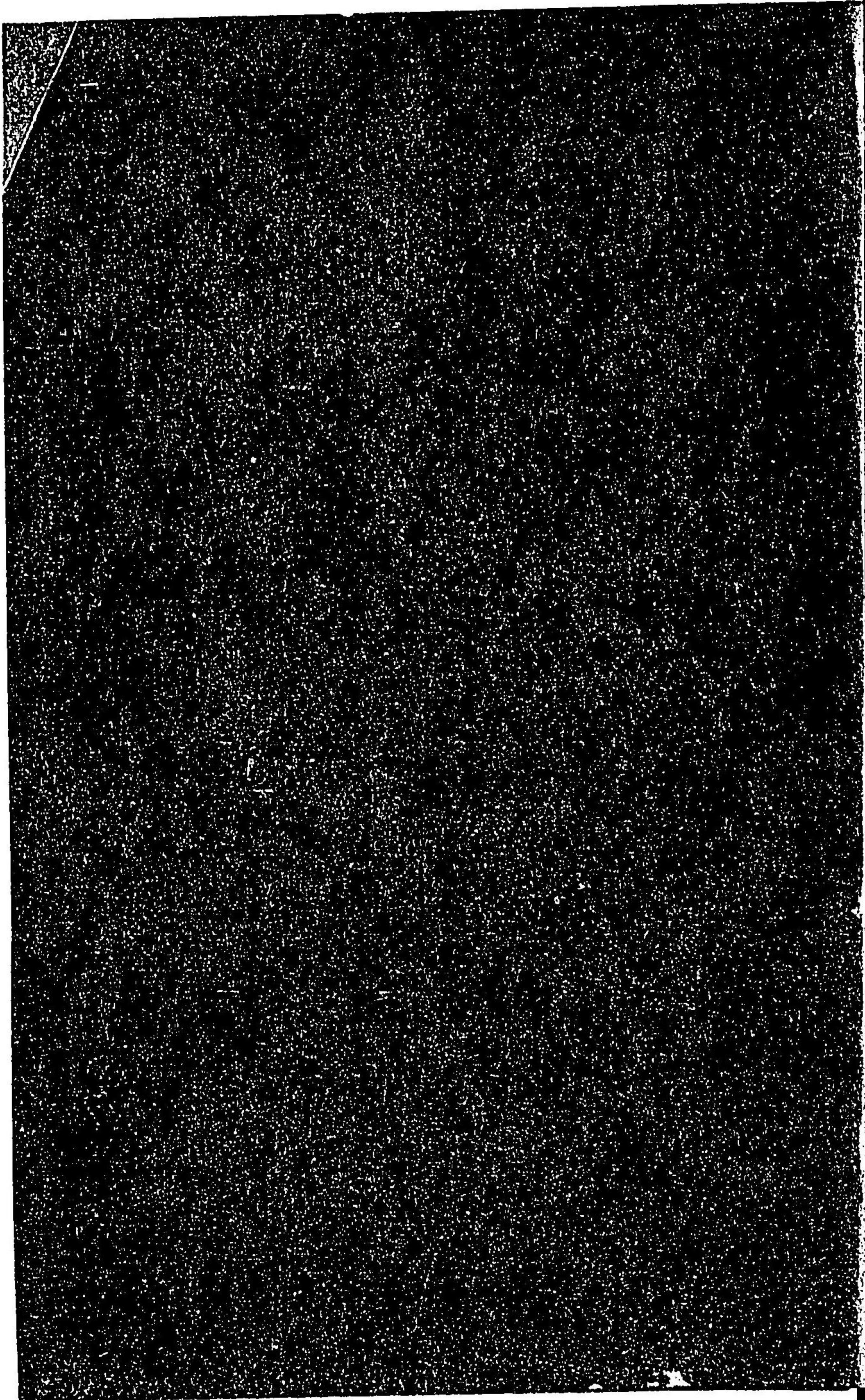
發賣所

京都市寺町通竹屋町南入 中澤明盛堂

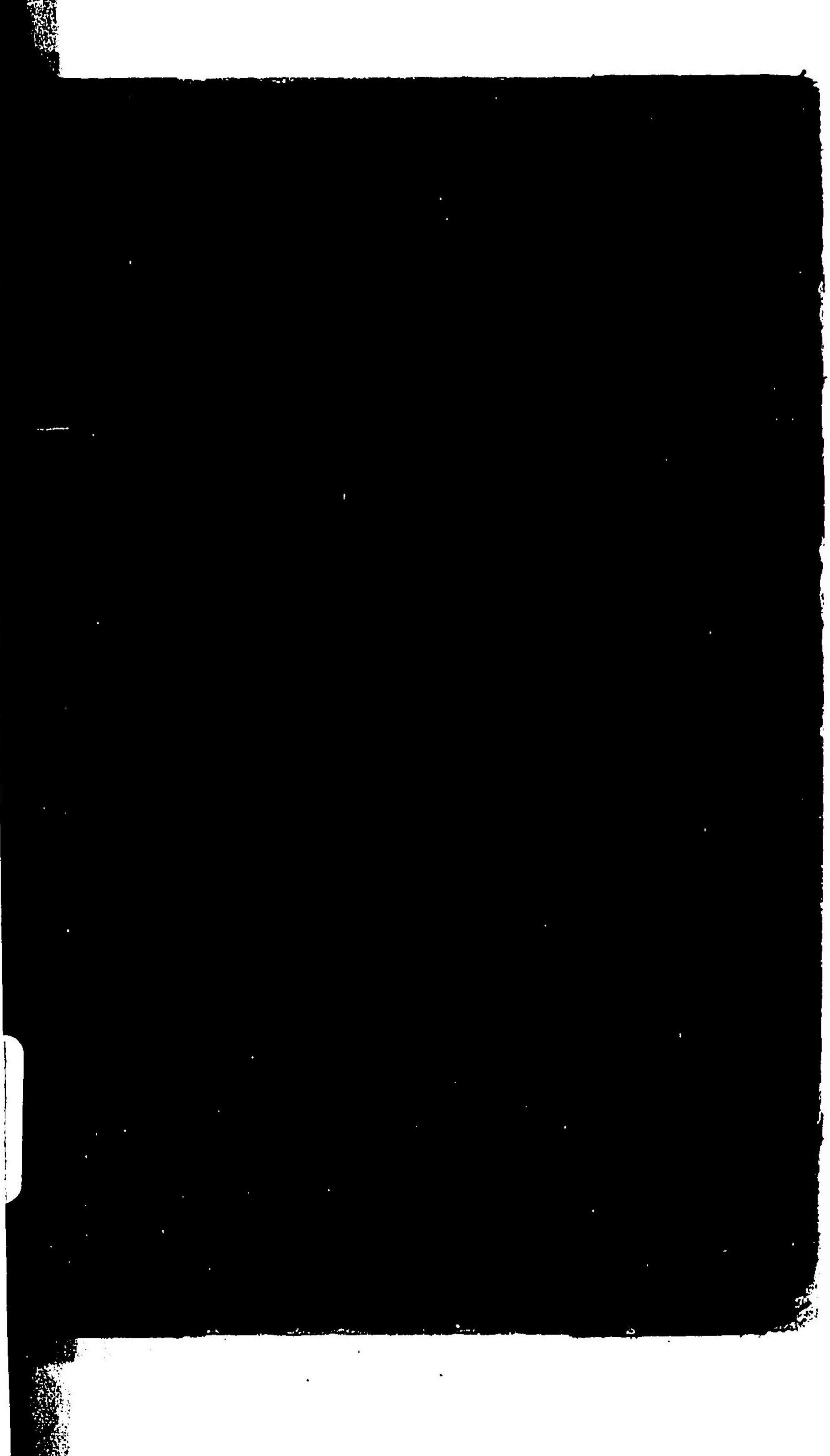
電話上五零五號  
振替東京 貳萬四號

正價金參拾五錢

389
63



339  
63



339

63

075599-000-9

339-63

大日本武徳会制定剣術形

内藤 高治

門奈 正 / 解説

M45

CEM-0549

